



National Institute of Technology, Hiroshima College Library

図 書 館 だ よ り

第 63号 令和 8 年 8 月 7 日

独立行政法人国立高等専門学校機構

広島商船高等専門学校



一 目 次

巻頭言

○隠された仕掛けに気づく力……………図書館長 藤沢 徹也

寄稿 <新任教員>

○ミハエル・エンデ『モモ』（大島かおり訳、1976年、岩波文庫）

……………一般教科 福岡 依鈴

○『自殺論』エミール・デュルケーム著/宮島喬訳 中公文庫……………商船学科 杉浦 翔

○答えは必ず「現場」にある。企業出身の私が、

どうしても皆さんに読んでほしい一冊。……………総合学科（電子）横田耕一

○「考えない」ために考える—東浩紀『平和と愚かさ』……………総合科学科（流通）高嶋 晃琉

○トピックス・編集後記

図書館長 藤沢 徹也

高校2年生のとき、現代文の先生がこう言われました。「文系は週に1冊本を読まないといけない。」それ以来、これを続けています（ブラックな学校に勤めていたときは無理でした）。大学1年生のとき、英語の先生がこう言われました。「本は自腹を切って買わないと頭に入らない。本を売っても二束三文にしかならない。」それ以来、これも続けています。こうして私の蔵書は増え続けています。家にある本で多い順に並べると、東野圭吾、内田樹、村上春樹、宮部みゆき、畠中恵です。ただし、シェイクスピアなどの文学全集は除きます。

小説を除くと、内田樹が一番多く、共著や対談も含めて60冊ほどありました。彼の本は、編集者がブログをあるテーマごとにまとめたものや、講演や大学の講義を収録したものが多く、とても読みやすいのに刺激的な内容です。ただし難しい表現もあり、「人口に膾炙する」という言い回しを覚えました。以前、電車通勤をしていたとき、『ためらいの倫理学』に集中しすぎて降りる駅を逃したことがあります。しかし、哲学者レヴィナスについての本はまったく、マルクスについての本はほとんど理解できませんでした。

内田の書籍に初めて出会ったのは『寝ながら学べる構造主義』です。文学研究において現代思想は必須ですが、難解な内容を非常にわかりやすく解説しており、大変助かりました。彼を全国的に有名にしたのは、おそらく『日本辺境論』でしょう。日本を斬新な視点で分析しています。さらに、彼を直接見たこともあります。高校の教え子が大学で内田樹と柴田元幸の対談を企画したというので、見に行きました。

内田は、現代思想、国内外の文学・映画、日本・中国の古典、聖書などから縦横無尽に引用します。その中で、私の生きていく指針となっているものがあります。できた

らしいなあと思っているのが、「雪かき」と「アンサング・ヒーロー」です。「(文化的)雪かき」は、村上春樹の『ダンス・ダンス・ダンス』に由来します。それは誰の義務でもないけれど、誰かがやらないと結局みんなが困る種類の仕事であり、プラスに評価される機会はほとんどありません。しかし、人知れず「雪かき」をしている人のおかげで、世の中からマイナスの芽が少しだけ摘み取られています。内田はそうした行為を世界の善を少しだけ積み増しする仕事だと述べています。「アンサング・ヒーロー」の行為とは、ちょっとした気づかいによってシステムの瓦解が阻止されるけれども、本人も含めて誰もそれを知らないというものです。たとえば、機械のノイズに気づいてネジを少し締めただけで、システムの壊滅的なリスクを回避するような行為を指します。

さらに『老子』には、「良い君主の統治とは、君主などいたのかと言われるくらいの状態である」と説かれています。担任をするとき、こうした状態が理想だと思ってやってきました。つまり、担任は過度に介入せず、必要なときだけ最小限のサポートをし、学生が自発的に動くことでクラスが自然に回っているような状態が望ましいと考えていました。余計なことをせず、気づかれない形で環境を整えられたらと思っていましたが、実際にはうまくいったことはありません。

内田は教育についてもさまざまなことを述べていますが、最も印象に残っているのは、「教育を商取引の比喻で語ることは最大の禁忌である」という言葉です。教育を商取引とみなすなら、商品は履修単位、貨幣は学習努力となり、学生＝消費者は「最小の努力で単位を得ること」が義務になります。消費者が最低の代価で商品を買うのが市場における適正な行動であるのと同様に、

賢い消費者としてふるまう学生は、教えられる内容にできるだけ欲望を示さないよう努めることになります。つまり、授業中にスマホを見たり寝たりしているのは、学生の努力の成果ということになります。

内田のこのような圧倒的な知識の引き出しには憧れます。高校の音楽の授業で、モーツァルトを題材にした『アマデウス』を見ました。サリエリが作曲したピアノ曲を皇帝がたどたどしく弾きますが、モーツァルトはそれを一度耳にただけで再現するという場面があります。続けて、こちらのほうがいいと言わんばかりに即興で曲を弾きます。そのときは天才はすごいと思っただけでしたが、最近そのシーンを YouTube で偶然目にしました。そこでモーツァルトが弾いていたのは、自身のオペラ『フィガロの結婚』の中のアリアでした。高校生のときはそんなことを思いつきもしませんでした。

最近、ネットで偶然見つけたプッチーニのオペラの DVD を見ました。やがて、非常に有名なアリア（「わたしのお父さん」）が流れてきました。その瞬間、自分の無知に愕然としました。これほど有名な曲なのに、その背景にあるオペラ『ジャンニ・スキッキ』という作品の存在を全く知らなかったからです。大学院でオペラ論を受講し、オペラには多少詳しいつもりでいましたが、調べてみるとこの作品は比較的良好に知られているということでした。結局、プッチーニといえば『ラ・ボエーム』や『トスカ』といった教科書的な作品しか知らなかったことを突きつけられました。さらに、ジャンニ・スキッキという名前はダンテの『神曲』から取られているそうです。米文学の専門家として、世界的な古典のメインキャラクターであるベアトリーチェなどは知っています。しかし、このオペラを制作した人々は原作の端役まで把握しており、オペラへと結実させています。音楽に関していえば、高校の卒業式で流れていたのは、おそらく

ブラームスの『交響曲第 1 番』だったように思います。かなり後になって気づきました。私自身、教員になって卒業式で流す曲を選んだことがあります。どうして高校の時の先生はその曲を選んだのだろうかといろいろ考えることに繋がりました。

世の中には、さまざまなことが隠され、仕組まれているように思います。それらに少しでも多く気づき、その意図を探れる人間になりたいと考えています。調べればわかることよりも、答えのないものを考える力が大切だと言われます。しかし、スマホから手が離せなくなるように仕向けているのは、世の中の超一流の頭脳です。私たち凡人が抗うのは容易ではないでしょう。それに対抗できるのは、多くの知識だと思います。

図書館には本や DVD があります。学ぶことにより別人になれるかもしれません。

◆◆◆ 寄稿 - 新任職員 - ◆◆◆

ミヒヤエル・エンデ『モモ』(大島かおり訳、1976年、岩波文庫)
一般教科 福岡 依鈴

私が幼いころから、家の本棚には海外の作品がいくつか置かれていた。おそらく親の趣味だろうが、『あしながおじさん』や『星の王子さま』、『海底2万マイル』などはあったような記憶がある。その中でも、個人的に最も印象に残っているのは、ミヒヤエル・エンデの『モモ』という作品だ。モモという身寄りのない女の子が街の人々と交流を重ねつつ、人間から大切なものを盗む泥棒たちに立ち向かう物語である。そう長い物語ではなく読みやすい文体で書かれているので、一度読んでみてもらいたい。

さて、先ほど「人間から大切なものを盗む泥棒」と書いたが、どのようなものが盗まれているとあなたは想像するだろうか。現実にいる泥棒は、金銭や商品などの物体を盗むことが多い(たまに「初恋泥棒」というものもあるが)。しかし『モモ』に出てくるのは、形がない「時間」を盗む、時間泥棒だ。彼らはどこからともなく現れ、言葉巧みに人間に時間を節約するようそそのかし、その時間をこっそりと奪っていく。そして、時間を奪われた人間は時間を節約することだけを重視し、それ以外のことは切り捨てていく。

『モモ』をはじめて読んだとき、私はおそらく小学生だったが、自分はそのような誘いには乗らないと強く思っていた。時間の節約に固執する意味はなく、それ以外に大切なものはあるはずだと漠然と考えていた。

だが、その時よりは大人になった今、もしかしたら私は既に、彼らの誘惑に乗っているのではないかと感じてしまう。

たとえば、どこかへ遊びに行きたいと考

えたとき、私はまずインターネットで情報を検索し、よい場所を探すということをする。場合によっては動画やレビューをみて満足し、遊びに行くことをやめてしまう。ひどいときは、何か楽しいことがないかとだらだらとインターネットや動画を検索しているときもある。これらの行動は、手軽に、今すぐ楽しくなりたいという欲求に流された結果だといえるだろう。

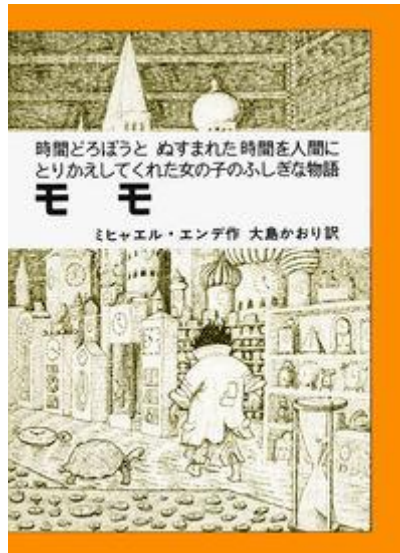
しかし、そのお手軽な楽しさが、記憶に残ることはほとんどない。時間をかけなかったことで余ったはずの時間も、いつの間にか消えている。増えるのは年齢と、もっと気軽に楽しくなりたいという欲求だけだ。

そのように思うと、時間泥棒は今でも私たちの身近にいるのだろう……もしかしたら私たちの手元にも。時間の節約の全てを否定するわけではないが、色鮮やかな記憶が自分の中に残るように、時には手間や時間をかける選択ができるような大人になりたいものである。

最後に、『モモ』の作者によるあとがきにある、この一節を引用してこの文を終えたいと思う。

「わたしは今の話を、」とそのひとは言いました。「過去におこったことのように話しましたね。でもそれを将来起こることとして話ししてもよかったんですよ。わたしにとっては、どちらでもそう大きなちがいはありません。」(355頁)

『モモ』
ミヒヤエル・エンデ 著



『『自殺論』 エミール・デュルケーム著/宮島喬訳 中公文庫』
商船学科 杉浦 翔

パリ周辺では自殺率が高い一方、南フランスでは低い。オーストリアのある街に駐屯する軍隊では自殺が多く、また万国博覧会の開催時期には自殺数が増加する。この本が書かれた時代の統計資料から浮かび上がったこれらの現象は、なぜ起こるのでしょうか。

それまで自殺は、個人の悩みや心理状態に起因する「個人の問題」と考えられてきました。しかし、フランスの社会学者エミール・デュルケームは、自殺を「社会現象」として分析しました。各国・各地域の統計を比較し、自殺率が宗教、家族、景気、社会制度などによって異なることを明らかにし、自殺は個人だけの問題ではなく、人と社会との結びつきのあり方に大きく左右されると論じています。

本書では、自殺を主に3つのタイプに分類しています。社会との結びつきが弱く孤立した状態で起こりやすい「自己本位的自殺」、集団への結びつきが強すぎて自己犠牲が求められる「集団本位的自殺」、そして社会の規範や価値観が揺らぎ、何を目標に生きればよいのかわからなくなる「アノミー的自殺」です。

特に「アノミー（無規範状態）」という概念は、急速な社会変化が続く現代にも通じるものがあります。SNSによって承認欲求がかき立てられたり、働き方や雇用環境が変化したりするなかで、多くの人々が将来への不安や価値観の揺らぎを経験しています。社会の変化が人々の生き方にどのような影

響を及ぼすのかというデュルケームの問いは、今日においてもなお示唆に富んでいます。

本書の最後でデュルケームは、自殺を減らすためには個人への精神論や道徳教育だけでは不十分であると述べています。重要なのは、人々が社会との適切なつながりを持ち、孤立せず、自らの役割や居場所を実感できる社会を築くことです。家族や地域、職業共同体といった中間的な共同体が、人々を支え、社会の規範を共有する役割を果たすことが、自殺の防止につながると考えました。

『自殺論』は、「なぜ人は自殺するのか」という問いに単純な答えを与える本ではありません。むしろ、「個人の問題に見える出来事を、社会全体との関係から考える」という社会学的な視点を私たちに与えてくれる一冊です。120年以上前に書かれた古典ですが、孤独や分断が語られる現代だからこそ、そのメッセージは色あせていません。

私自身、この『自殺論』をはじめ、マックス・ヴェーバーなどの社会学の古典を大学時代の恩師に勧められ、読むようになりました。古典は、内容も文章も決して平易ではありません。しかし、一度ですべてを理解する必要はありません。少しでも興味を持ったなら、まずは手に取ってページをめくってみてください。時代を超えて読み継がれてきた古典には、現代を生きる私たちにも新たな視点を与えてくれる発見があるはずです。

『自殺論』
エミール・デュルケーム 著

『答えは必ず「現場」にある。企業出身の私が、
どうしても皆さんに読んでほしい一冊。』
総合学科（電子） 横田耕一

4月に総合科学科(電子)に赴任しました。私は本校にやってくるまで、民間企業で約10年間、エンジニアとして働いてきました。そこで得た経験と、どうしても皆さんに伝えたいたった一つの信念を込めて、この一冊を推薦します。

『夜回り先生』 著者：水谷 修 / 出版社：小学館文庫

◇ 答えは必ず「現場」にある

民間企業時代、私は「現場」を何より大切にしてきました。トラブルを解決するための答えも、新しいアイデアも、机の上ではなく必ず現場にあると確信しているからです。

本書の著者である水谷修先生もまた、徹底して「現場」にこだわり続けた元高校教師です。水谷先生にとっての現場は、深夜の歓楽街。不登校や引きこもり、薬物、自傷行為に苦しむ子どもたちがいる闇の中でした。職員室の机の上だけで生徒を評価せず、夜の街を泥臭く回り、傷ついた若者たちの生の声に耳を傾け、命がけで彼らを救い出してきた軌跡が、この本には生々しく描かれています。

◇ 綺麗事ではない「本物の言葉」に触れてほしい

今の世の中は、時に「空気を読むこと」が最優先され、本質から目を背けてしまう不条理な一面があります。しかし、水谷先生は自分が周囲からどう見られるかを恐れず、泥をかぶってでも生徒のために信念を貫きます。

私が皆さんにこの本を読んでほしい理由はここにあります。ここには、大人の建前や綺麗事ではない、命がけで学生と向き合った「現場のプロの言葉」が詰まっている

からです。ページをめくるたびに、著者の圧倒的な熱量と覚悟が、読む側の心に真っ直ぐ刺さってきます。

◇ 本校の皆さんへ

これから技術者として社会へ羽ばたく皆さんに、あえて言います。理論や計算、実験データは非常に大切です。しかし、それ以上に大切なのは、実際に足を運び、自分の目で見える「現場」です。そしてそれは、ものづくりだけでなく、人間の「心」の問題もまったく同じです。

もし今、レポートの重圧、進路の不安、人間関係などで「誰も自分の苦しみを分かってくれない」と一人で抱え込んでいる人がいたら、まずは騙されたと思って、この本を数ページだけでも開いてみてください。「死ぬな」「いつでもおいで」「君は一人じゃない」。

本の中から聴こえてくるこの言葉は、今を生きる君たちへの強いエールになるはずです。そして、皆さんが通うこの高専にも、同じように皆さんの言葉を本気で聴き、味方になりたいと思っている教員がいることを忘れず、悩みがある時はいつでも頼って欲しいと思います。

『夜回り先生』
水谷 修 著

「考えない」ために考える—東浩紀『平和と愚かさ』

総合科学科（流通） 高嶋 晃琉

7/9～11日に韓国を旅行した。韓国を選んだのは、航空券が他の国より安かったからだ。1日目はソウル市内を観光し、2日目はDMZ(Demilitarized Zone、非武装地帯)ツアーに参加した。

韓国は北朝鮮と戦争中の国である。韓国人のガイドは「今日戦争が始まってもおかしくない」と強調していた。高層オフィスビルの屋上には、航空機を撃墜できる対空砲が置かれている。道路上にある門型の求人広告には爆薬が詰められており、対戦車障害物として活躍する。高速道路は直線に設計され、戦闘機の滑走路としても使える。そして、男性は20代のうちに兵役に就く。韓国の日常には「戦争への備え」が潜んでいる。

韓国と北朝鮮の軍事境界線から南北2kmがDMZとされている。検問所では、銃を装備した軍人がツアーバスに乗り込んできて、パスポートをチェックする。地雷原に囲まれた坂道を登ると、バスは都羅展望台に到着する。この展望台から見える北朝鮮のケソン工業団地は、南北協力の象徴として建設された。1998年に就任した金大中大統領が掲げた「太陽政策」によって、北朝鮮が土地と労働力を、韓国が資本と技術を提供した。最盛期には約5万4千人の北朝鮮労働者が働いたが、北朝鮮の核実験や弾道ミサイル発射を受け、韓国政府は2016年に操業を停止した。展望台からは、南北融和の夢と、その挫折の跡が一望できるのだ。

戦争と平和は対義語のように扱われる。

しかし、銃声が聞こえないことが平和なのだろうか。「平和と愚かさ」で東浩紀は、戦争や政治とは切り離された思考の領域が大きく広がっている状態を平和と定義した。ひとは小説を読み、音楽を聴き、スポーツを観戦する。そこで、例えば、ロシア文学が好きだからウクライナ侵攻を肯定する訳ではない。カーボベルデを応援しても、それが政治的な意見表明にはならない。このような「考えない領域」が、平和であるかを決定づける。これが「平和と愚かさ」のメッセージである。



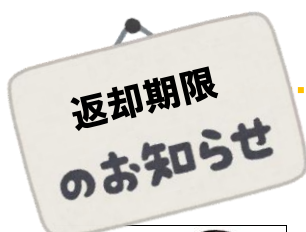
今の日本は平和だろうか。僕は平和だと思う。戦争を意識しない領域は、大きく残っている。ただし、僕たちの「考えない」は、考えたうえで政治から距離を置くのではなく、知らないために考えられないことになってはいないだろうか。

韓国旅行は、そんな自分を一度「考える領域」へ引き戻した。だからこそ、明洞の夜市で激辛タコ串を食べ、OLIVE YOUNGで顔パックを選ぶ時間も、少し違って見えた。韓国で「考えない」ためには、その足元にある朝鮮半島の歴史について、ときどき考える必要がある。

『平和と愚かさ』は、哲学者・批評家の東浩紀が、ウクライナ、旧ユーゴスラビア、ベトナム、中国、アメリカなどを観光客として訪れ、戦争の記憶と平和について考えた哲学紀行文集である。東浩紀の著作では、『観光客の哲学』『訂正可能性の哲学』もあわせておすすめしたい。

『平和と愚かさ』

東 浩紀 著



今年の夏の特別貸出の期限は、**9月24日(木)**です。

長期休み前に借りた本は、返却も忘れがちになります。
皆で利用する本です。ご返却よろしくお願いします。

なお、返却期限がそれ以前の本は、至急ご返却ください。

図書購入リクエストって？

読みたい本・卒業研究に必要な本がある人は、図書館にご相談ください。

図書購入リクエストとして専用の紙にご記入いただいたら、図書館の本として登録するので、ご利用いただくことが出来ます。

(予算が限られているので、シリーズの本や内容によってはご遠慮いただく場合があります)

気になる本がある人は、ぜひ図書館のカウンターでご相談くださいね。

編集後記

❁ 図書館をご利用いただけるように、読書に親しんでもらうことを目的に、令和8年も「図書館だより」を発行いたします。

❁ 館長が交代となり、新館長 藤沢先生初の巻頭言です。藤沢先生におかれましては、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。また、昨年まで館長をお勤めいただいた澤田先生には、長年のご活躍に御礼申し上げます。またぜひ利用者としてご来館ください。

❁ 新採用の先生方4名から、ご寄稿いただきました。ご協力ありがとうございます。図書館が所蔵しているものと新刊で入手できるものは後日、推薦図書として展示させていただきます。

❁ 図書館の本について、使い方について、質問や要望がありましたら、ぜひ図書館職員にご相談ください。

◆ 編集発行：図書委員会(令和8年度)：藤沢徹也(図書館長・一般教科)
清田耕司(商船学科)・岡島宏樹(流通情報工学科)・朝倉和(一般教科)
横田耕一(電子制御工学科)

◆ 〒725-0231 広島県豊田郡大崎上島町東野 427-1
TEL: 0846-67-3007

◆ ホームページ: <https://www.hiroshima-cmt.ac.jp/facility/lib.html>

